接待を伴う飲食店

帯広市医師会
帯広泌尿器科
井上　隆太

私の数少ない趣味は旅行でしたが、新型コロナウイルス流行の影響で十勝管内からなかなか出られない状況が続いております。私の実家は岩手ですが、実家にもしばらく帰れなさそうです。

しかし、好きなこともできませんが、苦手なこともしなくてよいということに気が付きました。私の苦手なことはカラオケです。特にカラオケを置いているスナックを最も苦手にしています。

学生の頃からカラオケは苦手で避けるようにしていましたが、研修医２年目の時に、より苦手になる出来事がありました。その当時、夜中まで仕事をした後、毎週のように上司にスナックへ連れて行かれました。いやいや歌わされたあげく、こんな下手な歌は今まで聞いたことがない、と言われ続けたのがトラウマになっているようです。

もともとお酒は好きで飲み会には参加する方なのですが、ほとんど必ずと言っていいほど２次会はスナックやカラオケという流れがあり、それを避ける方法をいつも考えていました。２次会がスナックとなれば１次会の後半から気配を消して、人知れずいなくなる方法を考えていましたが、あまりうまくいった試しはありません。

ところが最近のコロナ禍でカラオケやスナックなどが３密のため感染リスクが高いと指摘され、全く行く機会がなくなりました。３密とはみなさんご存じの通り、新型コロナウイルス集団感染予防目的に厚労省などが掲げた３つの密、「密閉」「密集」「密接」のことです。

スナックはそのすべてがそろい、さらに大声で歌う場所です。カラオケが嫌いなのもありますが、田舎育ちのせいか密閉、密集も苦手にしており、それらが重なってスナックを最も苦手な空間と感じてしまうのだと思います。密接が好きか嫌いかは相手によると思いますが、まず間違いなく店員さんにもカラオケを強要されるため、店員さんにすらなるべく話しかけられないようにしていました。

旅行に行けないストレスは感じますが、スナックに行くストレスからは解放されました。スナックの方々やスナックを愛してやまない方々には大変申し訳なく思うのですが、こんなに苦痛に思っている人間もいることをご理解いただければと思います。そもそも、スナックに限らずどこに行っても人が多すぎたのだと思います。

いつかまたみんなでスナックに行く日が来るのでしょうか？　カラオケが無い、開放的なスナックがニューノーマルになれば、私もスナックに行きやすくなるでしょう。

コロナ時代の小児科医

江別医師会
松尾こどもクリニック
松尾　　巧

コロナのパンデミックが始まり、世界中で大きな変化が起きています。

今年の１月から騒ぎが続いていますが、毎日TVを見ながら、一市民として一医師として、「何故オールジャパンで立ち向かえないのか」と思われてなりませんでした。対策分科会長の尾身先生はじめ皆様ご苦労様でしたが、先生たちだけではなくウイルス学と防災防疫学の２面から、分析と対策を進めていく組織が必要だと思いました。

それにしても何か事件があれば、政府が一部の学者、医師に要請しその場をしのいでいくのは見ていて不安です。今回は対策分科会の方針で乗り切れそうですが、やはり国民の健康と安全を考え、常設的に研究と指導をしていく組織が必要だと思われました。

これを機に日本版CDCを立ち上げることが望まれます。

新型コロナウイルスを制圧できるまで、数年はかかると思いますが、小児科医の仕事は随分変わりそうです。以下、現状と小児科医が不安に感じている点について述べてみます。

第１に病院での感染リスクを心配した患者さんが非常に多く、受診抑制が広範に起こりました。基本的には、現在でもこのトレンドは続いているようです。

第２は、手洗い、マスク、ソーシャルディスタンシングが徹底的に行われ、普通の感染症が激減しています。例えば今年は、夏場のウイルス感染症である手足口病や、アデノウイルス感染症が通常の１/100位に減少しました。インフルエンザも今年は少ないでしょう。

第３は学校や保育所レベルでコロナが増えてきていますが、小児科医全体としてどのように対処していくのかクリアなイメージが湧きません。個々の小児科医としても以下のような悩ましい点があるのです。

①「発熱外来」をどうするか？　小児科の患者さんの半分は発熱患者です。コロナが近隣で発生しだしたら、どう対処すべきなのか？

②院内でコロナ検査をする場合、院内の動線はどうしたらよいのか？

③コロナ陽性の患者さんへの対処は？　患者さんが増えてきているが、入院体制は大丈夫なのか？

④情報開示の問題もあります。「どの保育園、幼稚園、学校で患者が発生している」という基本的な情報は一線で働いている、私たち医療従事者には伝えられていません。

私たちが患者さんの命を守らなければならないのはもちろんですが、自身とスタッフの命も守らなければなりません。この点で適切な情報開示が早急になされることを望みます。

いずれも難問ですが、行政とも協力して、この未曽有な局面を乗り越えていきたいと思います。